

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

I 法人の概要（平成30年4月1日現在）

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

2 設立年月日

昭和51年3月25日

3 代表者

理事長 利島 康司

4 基本財産

2,261,320千円

5 北九州市の出捐金

1,650,000千円（出捐の割合 73.0%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	12人	0人	1人	11人
常 勤	1人	0人	1人	0人
非常勤	11人	0人	0人	11人
職 員	67人	6人	0人	61人

7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興、北九州市における観光事業の健全な振興に資するとともに、コンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

II 平成29年度事業実績

1 総 論

西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的にMICEを推進する。また、国内外の観光客誘致・滞在化を促進し、産業振興・国際化ならびに観光振興の推進・にぎわいづくりで北九州市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あるまちづくりに貢献するため、以下の方針で事業運営に取り組んだ。

- ・MICE開催の質を高め、産業振興・国際化を推進し、地域の発展に貢献する。
- ・MICE開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開、市内外からの集客力を向上し、地域への経済波及効果を増進する。
- ・施設の付加価値を高め、利用者ニーズに合致した利用環境・サービスを提供し、目的達成の基盤を整える。

- ・情報発信・受入態勢の質を高め、国内外の観光客誘致・滞在化を促進する。

【概況】

MICE分野においては、毎年恒例の自主事業に加え、夏季・冬季のにぎわいイベントや新規見本市を実施したほか、コンベンションなどの誘致・開催および貸館営業などに積極的に取り組んだ。これらにより、展示場・会議場ともに稼働率、利用者数で高い実績を確保することができた。

観光分野においては、観光客誘致・滞在化促進のため、国内外でのセールスの実施や、情報発信、観光に関する施設の管理・運営に取り組んだ。

収支についても一定の黒字を確保し、将来に向けた経営基盤の強化を図るとともに、サービス向上のための施設改修や、備品類の更新等についても取り組むことができた。

しかしながら、MICEの大都市圏への集中や、周辺他都市における展示場やコンベンション施設の新増設、MICEや観光に関する国内、世界規模での誘致競争などにより競争の激化が予想され、中・長期的には楽観できない状況にある。

したがって、引き続き誘致・営業の強化やサービス向上および経営の合理化を図り、これまで以上に自主自立の経営の確立を進めていかなければならない。

【指定管理計画の達成状況について】

現行の指定管理期間の4年目となる平成29年度は、概ね目標を達成している。

施設別では、展示場新館（国際展示場）が、利用件数179件・稼働率79.2%（目標：144件・73%）、国際会議場が、557件・94.5%（目標：700件・89%）と会議場利用件数は民間施設との競合で、目標を下回った。

施設利用者数については、目標の77万人を大きく上回る100万人超を記録した。

引き続き、指定管理計画に掲げた目標の達成に向けて、積極的に誘致・営業活動を展開し、新たな見本市・展示会、イベントの開催実現に向けて総力を挙げて取り組んでいきたい。

【平成29年度の取り組み】

① 主催事業への取り組み

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。

② コンベンション誘致の強化

開催助成金制度を有効に活用し、国際・全国規模の学会・大会・展示会等の誘致に積極的に取り組み、国際コンベンションゾーンの更なる振興を図った。

③ 積極的な営業活動の実施

施設稼働率の向上に向け、既存の利用者の定着化、潜在的な顧客の掘り起こしを目的とした積極的な営業を推進した。併せて、施設利用者への集客や広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努めた。また、特に閑散期における利用者増・収入増を目的とした取り組みも行った。

④ 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベント開催の検討

同地区の企業・団体等と連携し、地区の魅力アップとにぎわいづくりにつながるイベント等の一体的な開催を検討し、「あるあるCity」など地域の資源を活用した事業を展開するため、イベントの誘致や共同開催に向けた取り組みを行った。

⑤ お客様満足度の向上

質の高い貸館サービスの提供や快適な利用環境を確保するため、一層のお客様サービスの向上や、施設の老朽箇所の改修、無線LAN増設等の利便性向上に努めた。

⑥ 観光客の誘致および滞在化促進

「北九州市国内観光客等誘致促進協議会」等における、国内・海外での観光PRの実施や、市、修学旅行関連企業と連携した修学旅行誘致のセールス等を実施した。

⑦ 観光都市北九州の広報宣伝、特産品の紹介・宣伝

機関誌・パンフレット等の発行やホームページの運営により、観光情報の発信や特産品のPRに努めた。また、特産品紹介においては、通販サイトでより話題性の高い商品などを発掘し、魅力あるサイト運営に努めるとともに、大規模イベント等で臨時売店を出店し特産品のPR・販売を強化した。

⑧ 観光に関する施設の管理・運営

北九州市観光案内所運営協議会を組織し、タイムリーな観光情報の提供や外国人観光客への多言語対応など、質の高い案内業務を実施した。

また、北九州おみやげ館や、小倉駅JAM広場等の施設運営について、効率的な運営と営業促進による収益増に努めた。

⑨ 合併による公益財団法人北九州観光コンベンション協会の発足

組織基盤の強化、拡充を図り、MICE誘致及び観光振興をより一層推進するため、平成29年4月、公益財団法人西日本産業貿易コンベンション協会と公益社団法人北九州市観光協会が合併し、新たに公益財団法人北九州観光コンベンション協会が発足した。

見本市・展示会事業（公益目的事業）

2 主催・共催事業

- (1) 西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針との連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。展示会等を取り巻く環境変化に対応するため、国や地方公共団体の政策展開の場としての展示会のテーマ開発やビジネス取引拡大の場づくりなど事業の再構築を行っている。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会 () 内は28年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
ワールドマーケット&ツーリズム2017	5月3日～7日	39,065人	220社・団体
西日本製造技術イノベーション2017	6月21日～23日	19,352人	46社・団体 (49)
第43回ふくおか産業技術振興展		(14,688)	23社・団体 (22)
第39回西日本陶磁器フェスタ	9月14日～18日	50,854人 (49,258)	218社 (205)

エコテクノ2017～地球環境ソリューション展～	10月11日～13日	31,066人 (34,896)	48社・団体 (66)
エコテクノ2017～エネルギー先端技術展～			73社・団体 (72)
エコ・ベンチャー・メッセ2017			29社・団体 (22)
中小企業テクノフェア in 九州2017			67社・団体 (61)
P.P.C.2017 第19回西日本国際福祉機器展	11月16日～18日	22,111人 (19,903)	128社・団体 (144)
合 計	9事業 (9事業)	162,448人 (123,843)	852社・団体 (712)

※平成28年度の合計には、「SAFETEC2016（第2回西日本防災・防犯危機管理展）」の実績を含む。

【事業の効果的な推進に向けた主な取り組み】

ア 見本市・展示会の再構築

「世界のビジネス潮流」「働き方改革」など国内外の動向を見定めつつ、各展示会の目的や意義と経済効果を勘案しながら、展示会の魅力向上と事業の共通化による効率運営を目指して事業の再構築に取り組んだ。

○ 年間プロポーザル制度の導入

展示会開催直前に集中する業務を削減するために、個別に行われていた装飾施工業務や電気工事業務の入札を年度で一本化する「年間プロポーザル委託制度」を実施し、出展社の電気や備品などの手配関係を委託先で受注するなど、次年度に向けた担当者の負担軽減の取り組みを始めた。

○ 「西日本製造技術イノベーション」における取り組み

本年度は、「IoT」「ロボット」「ビッグデータ」「AI」により製造業が迎える第4次産業革命の概要と先進取組事例についてのセミナーを開催した。また、平成28年度に引き続き、地元中小企業への産業用ロボットの普及促進を目的としたセミナーや、航空機産業・自動車産業を中心に注目を集める高機能素材「CFRP（炭素繊維強化プラスチック）」を地場に普及・啓発することを目的とする特別企画展を開催した。

また、溶接業を対象とした2017ウエルディング・フォーラム in 西日本と相互来場可能な同時開催を実現し、“ものづくりの街”北九州市で開催する展示会として規模の拡大・入場者数増加に取り組む、前身の「西日本総合機械展」からのリニューアル（平成25年）後、最大の来場者数を記録した（同時開催展含む）。

イ 国際化の推進

国内市場が縮小するなか、海外との取引拡大の機会の提供に注力した。

○ エコテクノ～地球環境ソリューション展～国際環境ゾーン

韓国釜山市より2社・団体が出展、合わせて香港からも行政機関が出展し、セミナーの参

加やビジネスマッチングの実施などにより取引拡大を図った。

また、BEXCOとのMOUに基づいた「ENTECHベトナム」出展事業に参加した企業に講師を依頼し、「アジア環境ビジネスセミナー」を開催し国際進出のための情報発信を実施した。

ウ 成果のあがる展示会の構築（継続的マッチング支援）

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とユーザーとの橋渡しに努め、より大きな成果が得られるように会期前後の活動を強化した。

○ 製造技術マッチングフェア（商談会）の開催

平成 28 年度に続き、展示会を介した地域中小企業の販路拡大支援として、当協会主催で「製造技術マッチングフェア（商談会）」を開催した。

○ 中小企業テクノフェア in 九州 2017 ビジネスマッチング事業

創立 15 年を迎える産業コーディネータ集団「NPO 法人北九州テクノサポート」と連携し、会期中に出展社と川下企業とのマッチング成果を高めるべく、6 月～11 月の期間、準備・実施・フォローを行った。

○ 西日本国際福祉機器展

韓国釜山市、仁川市より 2 社・団体が出展。国内バイヤーとの取引拡大と情報交流が行われた。

(2) 主催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。(93 テーマ、参加者数 4,663 人)

3 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

(2) アジアとの連携・交流

ア 韓国BEXCO（釜山国際展示場）とのMOU事業

平成 27 年 10 月のMOU締結以来、BEXCOとは主催事業の相互出展やベトナム環境展において九州企業の販路拡大を支援してきた。その中で、同展示場と関係の深いMESSE KOREA社（釜山市）や上海CHC-EXPO社（上海市）の紹介を受けて、展示会の国際的なビジネス展開を広めるため、それぞれの団体を訪問し、相互出展事業について検討を始めた。また、今後についても展示会場同士の交流を進める中で、新たな企画開発なども検討を進める。

イ アジアの関係団体等への展示会出展誘致活動の実施

当協会の主催事業には、エコテクノに韓国BEXCO（釜山国際展示場）の主催する「ENTECH釜山」とのブース交換により韓国企業 2 社・団体が出展した。また、香港貿易発展局も出展し、香港の環境関連産業への投資促進を図る展示を実施した。

当協会からは、「ENTECHベトナム」（ホーチミン）、「ENTECH釜山」、「KORECA2017」にブース出展した。ホーチミンでは 3 社、釜山では 1 社の企業を参加コーディネートし、アジア地域での取引拡大を図った。

(3) 新規見本市の開発

西日本総合展示場開館 40 周年記念及び「西日本インポートフェア&食メッセ」の後継事業として「ワールドマーケット&ツーリズム 2017」を開催した。国内の離島、山村から、海外（イタリア、韓国、タイなど）まで幅広いエリアからの出展・参加があり、各地域の観光・物産・食の魅力を来場者に紹介することができた。また「体験」をテーマに内容の充実を図ったステージイベントやワークショップは多くの観客を集め、ゴールデンウィークのにぎわいづくりに貢献した。

(4) 災害復興支援

平成 28 年 4 月に発生した熊本・大分地震災害と平成 29 年 7 月の九州北部豪雨災害により、展示会に関係する様々な団体・企業が被災した中で主催事業の活用等により復興支援に取り組んだ。

会議・大会等（公益目的事業）

4 誘致・支援事業

- (1) 本年度はグローバル MICE 都市・北九州市として、ローカルホスト及び、グローバル MICE 推進協議会との連携を強化し、積極的な誘致活動を進めた。その結果、JNTO（日本政府観光局）が発表する「2016 年日本の国際会議開催件数」において、本市は初めて TOP 10 に入ることができた。また、海外見本市・商談会や、ICCA の総会、JNTO のキーパーソン招聘事業などに継続参加し、海外ネットワークの拡充にも力を注いだ。

なお、観光庁が作成した「MICE 開催による経済波及効果測定モデル」によれば、本年度に当協会が誘致し開催した案件による経済波及効果（間接 2 次波及効果、雇用効果を含む）の推計値は 101 億 3,490 万円であった。

◆年度別開催件数の推移 （単位：件）

区分	国際	全国	その他	合計
29 年度	121	75	86	282
28 年度	90	73	102	265
27 年度	75	91	113	279

◆年度別参加者数の推移 （単位：人）

区分	国際	全国	その他	合計
29 年度	35,147	89,957	89,173	214,277
28 年度	44,580	104,687	53,997	203,264
27 年度	47,906	108,105	63,191	219,202

- (2) 国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に積極的に取り組んだ結果、本年度の開催状況は、282 件となった。

また、これらの誘致活動および開催助成金の効果として、平成 30 年度以降に合計 172 件（30 年 3 月 31 日現在）のコンベンションが予定されている。

◆平成 29 年度開催の主な会議・大会

規模	名 称	開催 時期	会 場	規 模 (国、人数)
国際	The 34th Live Demonstration in KOKURA (第 34 回小倉ライブ)	H29 年 5 月	西日本総合展示場新館 A I M	5,000 人 (10 カ国 130 人)
	10th Asia Academy of Management Conference, 10th Taiwan Academy of Management Conference	H29 年 6 月	北九州国際会議場	500 人 (20 カ国 500 人)
	The 12th International Conference on Damage Assessment of Structures DAMAS2017	H29 年 7 月	北九州国際会議場	300 人 (16 カ国 195 人)
	The 16th International Conference on Intelligent Software Methodologies, Tools, and Techniques (SOMET_17)	H29 年 9 月	北九州国際会議場	300 人 (17 カ国 120 人)
	The 14th International Conference on Modeling Decisions for Artificial Intelligence (MDAI2017)	H29 年 10 月	九州工業大学 戸畑キャンパス	222 人 (11 カ国 69 人)
	第 34 回製剤と粒子設計シンポジウム	H29 年 10 月	リーガロイヤルホテル小倉	738 人 (3 カ国 10 人)
	Asia Pacific Symposium on Safety (APSS2017)	H29 年 11 月	北九州国際会議場	468 人 (8 カ国 426 人)
	International Conference Asia-Pacific Hybrid and Organic Photovoltaics (AP-HOPV18)	H30 年 1 月	北九州国際会議場	600 人 (14 カ国 390 人)
全国	2017 九州ロービジョンフォーラム in 北九州	H29 年 5 月	北九州国際会議場	502 人
	平成 29 年度 池坊全国大会・理事会、評議員会	H29 年 5 月	西日本総合展示場新館 リーガロイヤルホテル	4,000 人
	第 55 回日本小児歯科学会大会	H29 年 5 月	西日本総合展示場新館 A I M	3,000 人
	2017 ウェルディング・フォーラム in 西日本	H29 年 6 月	西日本総合展示場新館 A I M	19,352 人
	平成 29 年度 第 34 回全国少年少女レスリング選手権大会	H29 年 7 月	北九州市立総合体育館	6,000 人

	第 27 回日本神経回路学会全国大会	H29 年 9 月	北九州国際会議場	696 人
	第 65 回日本職業・災害医学会学術大会	H29 年 11 月	北九州国際会議場	900 人
西日本 九州	九州北部税理士会 第 52 回全国統一研修会	H29 年 10 月	北九州国際会議場	800 人
	九州山口医師卓球大会	H29 年 10 月	北九州市立総合体育館	5,200 人
	平成 29 年度 第 34 回九州高等学校選抜剣道大会	H30 年 1 月	北九州市立総合体育館	5,000 人

- (3) 主催・共催事業については、北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用した映画の上映や俳句等の文化事業や異業種交流を目的とした事業や小倉駅新幹線口にぎわいづくり事業など、子どもから年長者まで幅広い年齢層を対象にした特色のある各種事業を実施した。

◆イベント・大会等の企画、開催（主催・共催）

※（ ）内は 28 年度実績

事業名	開催期日	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイト in こくら	8月1日	延べ170人 (延べ386人)
夏休みこどもシアター	7月23日	381人 (260人)
第7回国際将棋フォーラム	10月27日～29日	2,494人 (実績無)
第17回全国俳句大会 in 北九州	3月3日～4日	1,510人 (1,578人)

貸館利用者の誘致・営業強化

5 営業体制の強化

(1) 既存利用者の利用定着化及び過去の利用者の利用復活

本年度は、過去の展示場の顧客データを分析するとともに、利用頻度が減少等している顧客に対し、定期訪問による施設利用の働きかけや集客支援などの提案営業を実施し、11 件の利用の復活を実現した。

(2) 新規利用者の開拓

工作機械関連やコンビニチェーンなど、19 件の新規展示会等を開催した。

(3) 大規模イベントの実施

8 月に初の本格的な大規模コンサートとなる「THE IDOLM@STAR CINDERELLA GIRLS 5th LIVE TOUR Serendipity Parade!!!」を、3 月にも「THE IDOLM@STER SideM 3rd LIVE TOUR GLORIOUS ST@GE」を新館で 1 日間初開催した。また、10 月には、今回で 3 度目となる「東京ガールズコレクション (TGC)」が開催された。

◆平成 29 年度 新規及び利用が復活した展示会・見本市等の誘致実績 (30 件)

催 事 名		会 期
LEGO ワンダーフェス 2017 BRICKLIVE in 北九州	新規	4 月 1 日～5 日
DMG MORI 小倉プライベートショー	新規	4 月 6 日～8 日
2017 フードフェア in 北九州	復活	5 月 16 日～17 日
F. T. W. SHOW FINAL 2	新規	5 月 21 日
メガスーパーカーモーターショー2017	新規	6 月 2 日～4 日
全九州スーパーダンス競技大会 in 北九州	復活	7 月 2 日
社交ダンスメダルテスト&パーティ	新規	7 月 2 日
YD デンタルフェア 2017	復活	7 月 8 日～9 日
トミカ博 in KITAKYUSHU	復活	7 月 14 日～19 日
INPACT	新規	7 月 23 日
からだのひみつ大冒険 2017	復活	7 月 27 日～9 月 3 日
THE IDOLM@STAR CINDERELLAGIRLS 5thLIVE TOUR Serendipity Parade!!!	新規	7 月 29 日～30 日
平成 29 年度 (第 67 回) 税理士試験	復活	8 月 7 日～10 日
11/12「高橋 佳子講演会」準備会	新規	8 月 19 日
JAPAN CUP 九州サーキット 2017 北九州ラウンド	復活	9 月 3 日
Bon-Ten C u p Vol. 5 (ダーツ大会)	新規	10 月 8 日
2017 北九州どてらい市説明会	新規	10 月 19 日
「高橋 佳子講演会」	新規	11 月 12 日
西日本釣り博 2018 出展説明会	復活	11 月 14 日
第 2 回 広域技術マッチングフェア	復活	11 月 22 日
第 2 回 山口・広島・北九州 PPP/PFI セミナー	新規	11 月 22 日
福岡トヨペット運動会	新規	11 月 23 日
AKB48 全国握手会	新規	11 月 25 日
九州機械加工システム展	新規	12 月 8 日～9 日

日本全国！鉄道ひろば 2018 in 北九州	復活	1月2日～8日
Pan Pacific Festival	新規	1月13日～14日
2018 春夏商品セミナー	新規	2月27日～28日
西日本釣り博 2018	復活	3月17日～18日
公益財団法人 健和会 評議員会	新規	3月24日
THE IDOLM@STER SideM 3rdLIVE TOUR GLORIOUS ST@GE	新規	3月25日

6 閑散期対策等のイベントコーディネート

(1) 夏季閑散期にぎわいイベント

夏季の閑散期にぎわいイベントとして、7月に「トミカ博 in KITAKYUSHU」を地元テレビ局のFBS福岡放送と本館で開催した。

同イベントは、平成27年度に続く3度目の開催であり、来場者数については、当初予測より増加し、約5.9万人で安定した人気を誇った。

しかし、平成26年度に約12万人の来場者があった「からだのひみつ大冒険」を3年ぶり2度目で開催したが、約4万人減の8万人の来場となった。

(2) 冬季閑散期にぎわいイベント

冬季の閑散期にぎわいイベントとして、2年ぶり2度目となる「日本全国！鉄道ひろば 2018 in 北九州」を新館で開催し、前回よりも約1.2万人少ない2.5万人の来場者数となった。

◆平成29年度 営業閑散期対策・ビジネスイベント等の開催実績

催事名	会期	入場者数
トミカ博 in KITAKYUSHU	7月14日～19日	58,871名
からだのひみつ大冒険 2018	7月27日～9月3日	80,865名
日本全国！鉄道ひろば 2018 in 北九州	1月2日～8日	25,227名
合計		164,963名

広報・宣伝、地域連携

7 広報、宣伝

ホームページや情報誌「催事案内」等において、イベントの最新情報や施設の紹介、協会の主催事業やコンベンション誘致に関する情報を提供し、見やすく迅速な情報発信ができるように努めた。また、北九州の玄関口である北九州空港において、電照広告看板による施設のPRやJR小倉駅のマルチビジョンによるPRも行った。

8 地域連携

小倉駅新幹線口エリアの地域振興団体と共同で、異業種交流会や地域清掃イベント等を行うなど、地域の一体感形成に向けた活動やにぎわいづくりに取り組んだ。

さらにJR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州及びJR西日本との連携による、効果的な主催事業等のPRを行った。

管理・運営

9 お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

ア 利用者からの問い合わせに対して、迅速かつ丁寧な対応を心掛け、事前の打ち合わせを綿密に行うことで、ニーズを的確にくみ取り、予想されるトラブル等を事前に防ぐよう努めた。

イ ミクニワールドスタジアムのオープンに伴い、スタジアム来場者が展示場・会議場利用者に影響が及ばないように、ギラヴァンツ北九州等と事前に会場周辺についての打ち合わせを行い、トラブル防止に努めた。

ウ 会議場では、利用者より要望のあったメインホールや国際会議室でもWi-Fiが利用できるよう設備の増強を図った。また来場者が展示場に並ぶ際に、屋外で日差しが強い・雨が降る等により不便をかけるため、来場者への負担を少しでも軽減できるよう、屋外テントを購入した。

(2) 職員の資質・能力の向上

専門講師を招いた、不祥事（セクハラ・パワハラ等）の防止、長時間労働の削減に関する研修の実施や、民間研修機関主催のフォローアップ研修の受講、展示場・会議場施設の全国協議会のセミナーへの派遣等を行い、職員の資質向上を図った。

10 利用料金制度の活用

平成26年度に新設したスポーツ利用及び名古屋市との相互利用割引制度を運用しており、今後もこれらの特別料金制度を活用することで、さらなる施設の利用を促進する。

11 管理業務の効率化

電力使用料金の低減を図るため、平成28年度から電力会社を変更し、引き続きデマンドの監視、力率の改善、空調動力の時差運転の実施等、消費電力の削減に努めた。また、各施設についても白熱灯からLEDへの更新をさらに進めた。

12 施設の改修等

お客様の利便性、安全性の向上等を図るため、施設設備の改修更新等を行った。

*展示場本館：本館屋外照明設備更新、駐車場区画線の引きなおし、火災報知器・非常用発電機用バッテリー更新

*展示場新館：西側・北側外壁補修工事、地下雑排水槽排水設備更新、館内配管や壁の補修工事、吸排気ファン・デリバントファン軸更新工事、アメニティ環境の更新

*国際会議場：全熱交換機交換工事、受電盤・饋電盤VCB更新工事、エレベータ耐震化工事、国際会議室調光盤更新工事、無線LAN増設工事、貯水槽ポンプ更新工事、喫煙所横床コンクリートや控室の壁の補修工事

13 施設の稼働率等

◆西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
29年度	67	285	80.3	32
28年度	65	252	78.5	27
27年度	72	279	77.5	30

◆西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
29年度	179	286	79.2	69
28年度	163	299	81.8	57
27年度	166	297	84.1	65

◆北九州国際会議場の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
29年度	557	325	94.5	6
28年度	568	321	92.2	7
27年度	548	319	90.4	7

14 指定管理

指定管理期間（26年度から30年度）の4年目であった29年度は、指定管理計画に掲げた目標（来場者数（展示場・会議場）77万人、コンベンション誘致件数195件など）を概ね達成（来場者数107万人、コンベンション誘致件数319件など）した。

観光客の誘致及び滞在化の促進

15 観光客誘客事業・滞在化促進事業

(1) 他都市及び旅行社等を訪れてのPR活動

北九州市及び観光関連企業で「北九州市国内観光客等誘致促進協議会」等を組織し、国内・海外において本市の観光資源や新しい観光情報等のPRを行った。

【北九州市国内観光客等誘致促進協議会事業】

北九州市観光キャンペーン in 関西での街頭キャンペーン及び旅行会社へのセールスや、「Kit a Qフェス in TOKYO」での観光PRなどを実施した。

【北九州市国際観光推進協議会事業】

新規インバウンド送客が見込めるタイ及び台湾における誘致助成金事業や、韓国、台湾、

香港等の旅行会社へのセールスを実施し、海外からの観光客の誘致を図った。

【北九州産業観光センター実行委員会事業】

「北九州マラソン2018」、「北九州産業観光フェア」など、市内や福岡市でのイベントに出展し、産業観光PRを実施した。

(2) まつり・都市間交流事業

「第22回知覧ねぶた祭り」、「くまもとお城まつり」に出展し、観光PRを行った。

16 修学旅行誘致事業

北九州市及び修学旅行関連企業と連携し、主要都市の旅行会社へのセールス活動を行った。

17 助成事業

北九州市国内観光客等誘致促進協議会事業として、市内の観光施設又は食事などで立ち寄るツアーおよび市内に宿泊するバスツアーを対象に、バスの台数に応じた補助を実施した。また、伝統的な祭事への助成を行った。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

18 企画広報宣伝・情報収集調査事業

季刊情報紙「誘 i n g 北九州観光だより」・北九州観光カレンダーの発行や、ホームページの運営等により、広報宣伝と観光情報の収集・調査に努めた。

観光に関する人材の育成及び啓発

19 百万にこここホスピタリティ運動

小倉のナイトスポットや飲食店等を紹介するマップの制作（50,000部）や、観光業務従事者の中国語（台湾語）研修等を実施した。

20 観光案内ボランティアの養成及び派遣

旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等でのガイド活動や、イベント、祭りに合わせて設置した特設観光案内所でのガイド活動を実施した。

(1) 旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区をはじめとするガイド活動

ガイド件数：982件、ガイド人数：23,835名（特設観光案内所含む）

(2) イベント、祭りにあわせて設置した特設観光案内所でのガイド活動

門司海峡フェスタ、とばた菖蒲まつり、小倉祇園太鼓、戸畑祇園大山笠、まつり八幡東 in 2017、わっしょい百万夏まつり

特産品の紹介・宣伝

21 特産品の紹介・宣伝

(1) 特産品パンフレットの作成配布、物産展開催

市内各所や他都市イベントにおいてパンフレット設置や特産品の試食配布を行った。

(2) ホームページでの紹介、販売（オンラインショップ）等

北九州観光市場や楽天市場での特産品販売や、ふるさと北九州市応援寄附金の返礼品の取扱いを行った。

(3) 大規模イベント会場での臨時売店設置

市内や福岡市、首都圏などでの大規模イベントにおいて臨時売店を設置した。

観光に関する施設の管理運営

22 観光案内所運営業務

【北九州市観光案内所運営協議会】

北九州市、九州旅客鉄道(株)、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)と北九州市観光案内所運営協議会を組織し、官民一体となり市内4箇所の観光案内所（北九州市観光情報コーナー・小倉駅総合観光案内所・門司港観光案内所・北九州空港総合観光案内所）におけるサービス強化を図った。

【北九州産業観光センター】

北九州産業観光センター（北九州市、商工会議所、観光コンベンション協会）において、産業観光協力企業と工場見学等に関する調整を行うとともに、産業観光ツアー及び工場夜景クルーズへのガイド・ナビゲーターの派遣等を行った。

23 土産品・特産品売店の管理運営

門司港レトロ地区の主力のお土産センターとして「北九州おみやげ館」を運営、免税店としての機能を活用し、外国人旅行者への特産品PR・販売を促進した。

また、TOTOMミュージアムでは、売店の運営を受託し、産業観光と連携した土産品の紹介・販売を行った。

24 小倉駅イベント広場等の管理運営

JR小倉駅3階在来線改札口前のJAM広場について、イベントや観光展などへ貸出を行った。

また、同場所において、大型映像装置「JAMビジョン」で、市政情報・啓発CMや観光情報、広告CM等の放映を行った。

Ⅲ 平成29年度決算

1 貸借対照表（総括表）

平成30年3月31日現在（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	564,459,874		
売掛金	11,231,707		
未収金	57,595,527		
棚卸資産	5,665,520		
貯蔵品	1,100,855		
前払金	984,683		
繰延税金資産（短期）	5,178,000		
立替金	2,624		
仮払金	15,720,523		
流動資産合計	661,939,313		
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	461,360,325		
建物附属設備	4		
構築物	172,761		
機械及び装置	53,871,601		
基本財産引当資産	761,021,258		
減価償却引当資産	984,894,000		
基本財産合計	2,261,319,949		
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	177,974,215		
減価償却引当資産	19,373,376		
目的事業引当資産	625,094,525		
事業開催引当資産	7,650,000		
施設耐震等改修工事引当資産	147,200,000		
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000		
主催事業強化費用準備資金積立資産	0		
誘致事業強化費用準備資金積立資産	0		
広報宣伝強化費用準備資金積立資産	30,000,000		
特定資産合計	1,082,292,116		
(3) その他固定資産			
建物	4,488,200		
建物附属設備	1,871,008		
構築物	1,761,053		
車両運搬具	2,903,590		
什器備品	1,755,255		
建設仮勘定	8,000,000		
ソフトウェア	148,615		
リース資産	3,335,128		
繰延税金資産（長期）	964,000		

その他目的有価証券	0		
その他固定資産合計	25,226,849		
固定資産合計	3,368,838,914		
資産合計	4,030,778,227		
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	5,723,745		
未払金	175,124,335		
前受金	23,061,732		
預り金	13,817,132		
仮受金	616,394		
未払法人税等	28,044,300		
賞与引当金	15,824,080		
流動負債合計	262,211,718		
2. 固定負債			
退職給付引当金	177,974,215		
リース債務	3,335,128		
預り敷金	600,000		
固定負債合計	181,909,343		
負債合計	444,121,061		
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	756,000,000		
展示場設備受贈益	371,544,947		
基本財産運用益	5,021,258		
指定正味財産合計	1,132,566,205		
(うち基本財産への充当額)	(1,132,566,205)		
(うち特定資産への充当額)	(0)		
2. 一般正味財産	2,454,090,961		
(うち基本財産への充当額)	(1,128,753,744)		
(うち特定資産への充当額)	(904,317,901)		
正味財産合計	3,586,657,166		
負債及び正味財産合計	4,030,778,227		

(注) 新法人移行初年度のため、前年度欄及び増減欄に記載すべき金額はない。

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日（単位：円）

	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	11,329,773		
展示場設備受贈益	23,326,508		
特定資産運用益	4,725,500		
受取会費	10,773,000		
事業収益	876,951,333		
受取補助金等	341,874,999		
受取負担金	80,384,159		
協賛金	630,000		
雑収益	18,700,433		
経常収益計	1,368,695,705		
(2) 経常費用			
事業費	1,204,604,749		
管理費	14,713,037		
経常費用計	1,219,317,786		
当期経常増減額	149,377,919		
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
車両運搬具売却益	191,410		
その他経常外収益	0		
経常外収益計	191,410		
(2) 経常外費用			
什器備品除去損	1		
機械及び装置除去損	0		
その他経常外費用	0		
経常外費用計	1		
当期経常外増減額	191,409		
他会計振替額	0		
法人税、住民税及び事業税	28,044,300		
法人税等調整額	▲ 2,623,000		
当期一般正味財産増減額	124,148,028		
一般正味財産期首残高	2,329,942,933		
一般正味財産期末残高	2,454,090,961		
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	4,377,008		
一般正味財産への振替額	27,623,508		
指定正味財産返還額	0		
当期指定正味財産増減額	▲ 23,246,500		
指定正味財産期首残高	1,155,812,705		
指定正味財産期末残高	1,132,566,205		
III 正味財産期末残高	3,586,657,166		

(注) 新法人移行初年度のため、前年度欄及び増減欄に記載すべき金額はない。

IV 平成 30 年度事業計画

1 総論

当協会を取り巻く中長期的な経営環境は、主催事業に求められる出展者・来場者のニーズの変化、MICEや観光に関する世界規模での誘致競争、周辺都市における展示場やコンベンション施設の新・増設の予定、国内各都市の観光客誘致の取り組みなどにより一層、競争が激化するものと思われる。

そこで、国の施策の活用や北九州市との連携を進め、統合した2つの組織の結びつきを強化し、相乗効果が発揮できるよう、事業活動に取り組んでいかねばならない。また、MICE事業部門では、経営の効率化を一層進めるとともに、統合した観光事業部門は、財務・事業基盤を早期に強化し、自主自立の経営を確立していかねばならない。

【協会の活動】

当協会の役割は、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的にMICE及び観光を振興することにより、産業振興・国際化の推進・にぎわいづくり・観光客誘致及び滞在化の促進で北九州市のまち・ひと・しごと総合戦略や観光振興プランなどの政策を支援し、にぎわいと活力あるまちづくりに貢献していくことである。この役割を果たすため、次の4つの基本理念に基づき、事業を推進する。また、事業の推進にあたっては、MICE事業と観光事業の連携を促進し、事業実施体制の強化、新たな連携事業の実施に取り組んでいく。

ア MICE開催の質を高め、産業振興・国際化を推進

- ・公益財団法人としての組織力・信用力の活用
- ・MICE研究の深化による専門性とMICE開催誘致の競争力向上
- ・環境変化に対応した主催事業のリニューアルと新規開発研究・企画
- ・先進国際コンベンション施設との提携と共同事業の実施
- ・地域に必要な高品質なコンテンツの提供と情報発信力向上に取り組み、産業振興・国際化を推進し、地域の発展に貢献する。

イ MICE開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開

- ・北九州地域におけるMICE開催によるビクターズインダストリーの積極的な推進
- ・主催事業のイベント分野への新規参入、イベント営業強化
- ・効果的な広報宣伝の実施
- ・国、福岡県、北九州市の施策の活用と連携・支援の推進
- ・他団体・他施設との連携によるエリアマネジメント
- ・観光事業との連携に取り組み、市内外からの集客力を向上し、地域への経済波及効果を増進する。

ウ 施設の付加価値を高め、利用者ニーズに合致した利用環境・サービスを提供

- ・小倉駅新幹線口コンベンション施設と西日本総合展示場3施設一体運用
- ・利用者視点からのきめ細かなサービスの提供と向上
- ・ユニバーサルデザイン等による施設・設備機能の改善
- ・ハード・ソフト両面でおもてなしの心の反映に取り組み、多様な利用者ニーズに合致した施

設づくりを推進し、目的達成の基盤を整える。

エ 情報発信・受入体制の質を高め、国内外の観光客誘致・滞在化を促進

- ・「北九州市国際観光推進協議会」事業によるインバウンド誘致の強化
- ・北九州市の魅力向上、情報発信力の向上を図り、国内外からの観光客増に向けた仕組みづくりと活動
- ・観光客の受入体制の強化とおもてなしの向上
- ・売店等の運営施設の活用、世界遺産、まつり等の地域資源の活用、新たな観光資源の掘り起こしによるにぎわいの創出
- ・MICE事業との連携に取り組み、国内外の観光客誘致・滞在化を促進し、観光振興を推進する。

【平成30年度の取り組み概要】

(1) 協会主催事業の強化

急速な人口減少や高齢化という国全体の課題が地方経済に大きく影響を及ぼす中で、国や福岡県、北九州市の産業政策の動向を踏まえながら、東アジアを含んだ広域的な観点や地域産学官と連携を進める。また、外部環境変化への対応に資する人材育成をすすめ、産業貿易振興やにぎわいの創出、社会課題への対応に貢献する協会主催事業を開発・推進する。

ア 産業貿易振興型の主催事業の開発・推進

エコテクノ・福祉機器展などの既存事業について、企画内容の充実、関係団体との連携推進、国際ビジネスの推進、出展企業の増加を図るなど、事業の質を高める取り組みを進める。

イ インキュベーション型事業開発と人材育成

新たな産業・ビジネスモデルの創造を支援するため、北九州市と協力して新規展示会（6次産業分野・デジタルものづくり関連など）の開発やモノづくりの先端分野における様々なテーマのフェアインフェアやセミナーなどを行う。

その他、新規展示会の営業や開催までの支援に協力いただくアドバイザーの導入や装飾入札制度の見直し・サイボウズアプリケーションの導入等の事務改善を行うとともに、余裕部分で新規見本市開発に資する人材育成を実施する。

ウ にぎわい創出型の主催事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、ファミリー・イベントの開催を行うとともに、ミクニワールドスタジアム北九州と連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

(2) 国際ビジネスの推進

平成27年度に締結した韓国釜山広域市にあるBEXCOとのMOUに基づき、展示会のグローバル化への対応を進める。また、上海最大規模の国際展示場で環境展等を開催している上海CHCと協力体制を築いて、北九州企業のビジネスチャンスの足掛かりを築く。

(3) MICE誘致の強化

国際・全国規模の学会・大会やスポーツ大会等の誘致に積極的に取り組み、「グローバルMICE都市」として、地域の経済発展や学術振興に貢献する。誘致のさらなる促進のため、市のMICE開催助成金の戦略的な運用のほか、国内外のトレードショーやMICE商談会への参

加、地域の大学やM I C E 関連事業者との連携も推進する。また、学会・大会の開催を通じて、西日本屈指のM I C E 開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン＝の更なる振興とにぎわいづくりに貢献する。

(4) 積極的な営業活動の実施

施設稼働率、利用者数等の向上に向け、既存の利用者の定着化、潜在的な顧客の掘り起こしを目的とした積極的な営業を推進する。併せて、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努める。また、特に、閑散期における利用者増・収入増を目的に、親子を対象としたにぎわいイベントなどの企画・開催に積極的に取り組む。

(5) 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベントの誘致、開催

同地区の企業・団体などと連携して、当該地区の魅力アップとにぎわいづくりにつながるイベントや事業などを開催することを検討していく。

あるあるC i t y、あさの汐風公園、ミクニワールドスタジアム北九州など地域の資源を活用した事業を展開するため、イベントの誘致や共同開催に向けた取り組みを行う。

(6) お客様満足度の向上

質の高い貸館サービスの提供や快適な利用環境を確保するため、貸出備品等の充実や手続き業務の効率化、簡素化を図ること等を検討する。また、人材育成に努め、接客力の充実を図り、施設利用者の利便性・満足度の向上に努める。

(7) 西日本総合展示場などの施設の改修等

建築後 40 年を経過した本館について、劣化等に対応した維持補修を着実に進めるとともに、耐震改修工事については、工期の設定に向けた準備を進める。

(8) 参画事業等によるインバウンド誘致の強化

「北九州市国際観光推進協議会」など、行政及び団体、会員企業で構成する推進団体の活動を軸に、台湾、韓国、香港、中国など東アジアの旅行社などへのセールス活動や、F I T 向けのP R 活動を強化し、外国人観光客の誘致を推進する。

(9) 新しい観光素材の開発と分析・広報の強化

新しい観光素材の発掘や各種セールス活動、観光セールス手法の開発などを行うため、ホームページやF a c e b o o k などのアクセス解析・分析を行い、観光客誘致のシステムづくりに向けた調査・分析、及びP R 強化に取り組む。

(10) 観光マインドの育成とスキルアップによる観光客受け入れ体制強化

外国人観光客の受け入れ体制強化へ向けた語学等の研修など、観光業務従事者のスキルアップを目指したセミナー等を開催する。

また、北九州観光市民大学を開講し、大学生の観光マインド醸成に努めるとともに、観光案内ボランティアを養成し、観光面でのボランティア活動の活性化を推進する。

(11) 観光に関する施設の管理・運営

観光案内所運営協議会の一員として、より質の高い案内業務を実施するため、民間委託業者へのタイムリーな観光情報の提供と案内業務の支援を行う。

また、新たな観光施設の管理・運営について、指定管理者募集等への提案企画案や事業採算の検討に着手する。

(12) 特産品PR事業の効果的な実施

通販サイトについては、これまでの実績データに基づき、より話題性の高い商品などを発掘し、魅力あるサイト運営に努める。

臨時売店等出展については、MICE事業部門と連携を図りながら、MICEで訪れたビジターへ向けた北九州市特産品のPR・販売を強化していく。

(13) 収益事業の安定的運営

観光事業部門の財務基盤を更に強化し、事業部門での独立採算経営を確立するため、門司港レトロお土産センター「北九州おみやげ館」や、小倉駅JAM広場・JAMビジョン事業等の主要な収益事業について、効率的な経営と営業強化による収益増を目指していく。

【指定管理計画の目標実現に向けて】

平成30年度はMICE事業部門では指定管理期間の最終年度を迎え、また、次期指定管理期間における指定管理者の選定が実施される。現在の指定管理計画に掲げる目標（平成30年度：来場者数（展示場・会議場）77万人、コンベンション誘致件数195件など）を着実に達成するとともに、次期指定管理者の指定に向けたアピールとなるよう、さらなる成果を目指して計画的・組織的な取り組みを進める。

次期指定管理者の公募においては、これまでの実績のアピールに加え、今後の北九州市の施策に貢献できる提案を行い、指定獲得を目指す。

2 各論

見本市・展示会事業

(1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実

平成30年度は、「エコテクノ2018」など、8事業を開催し、地域の産業・貿易の振興に努める。

《平成30年度開催の事業（新規事業を含む）》

事業名	開催期日	入場目標	出展目標
西日本製造技術イノベーション2018	6月13日	15,000人	60社・団体
第44回ふくおか産業技術振興展	～15日		30社・団体
第40回西日本陶磁器フェスタ	9月20日 ～24日	50,000人	200社
エコテクノ2018 ～地球環境ソリューション展～	10月10日 ～12日	30,000人	110社・団体
エコテクノ2018 ～エネルギー先端技術展～			100社・団体
エコ・ベンチャー・メッセ2018			25社・団体
中小企業テクノフェア in 九州2018			65社・団体

P. P. C. 2018 第20回西日本国際福祉機器展	11月15日 ～17日	20,000人	140社・団体
合 計	8事業	115,000人	730社・団体

《企画内容の充実》

■ 『西日本陶磁器フェスタ』の企画充実

→全国で最古参の陶磁器展示会として、陶磁器をテーマとする各種企画展の併設や、恒例の「ロールケーキフェスタ」や各種陶芸体験コーナーを同時開催。また、平成30年度は40周年を迎えるにあたり、これからの伝統工芸を支える若手工芸作家の紹介や来場者の買い替え需要を掘り起こす陶器供養など新規企画の開発、「西日本陶芸作家展」のテーマ展示や生け花と管弦楽とのコラボなど既存企画の強化を行い、新しい層の来場者開拓と出展者の売上増加を目指す。

■ 『エコテクノ』の強化

→主催機関で連携を強化し、営業活動に取り組む。水ビジネスやバイオマス等の分野へのアプローチを継続し、新たなテーマとして、再生可能エネルギーをキーワードとした学生対象の地域創生コンテストやパリ協定発効にかかる「CO₂削減」問題に視点を広げるほか、ビジネスマッチングを充実し、成果の上がる展示会として、魅力向上に努める。

《国際ビジネスの推進》

■ アジアの関係団体等への出展誘致の推進

→九州の市場と結びつきを強めるアジア各国に対して、提携関係にあるBEXCOや中国の展示会主催団体と協力して相互の展示会のPRを行い、展示会への出展やセミナー、シンポジウム等への参加を促進するための誘致活動を行う。アジアからの出展・集客の促進を目指す。

■ 韓国釜山広域市BEXCOとの連携

→平成27年度に締結したMOUに基づき、相互出展の拡大と海外展示会への出展、展示会の開催調査、新規事業の開発に取り組む。

■ 上海CHC（展示会主催団体）と連携

→上海CHCと協力体制を築いて、相互の展示会のPRや集客、共同出展などを通じて、協会の主催展示会の国際化と北九州企業のビジネスチャンスを作るための足掛かりを築く

(2) インキュベーション型の事業の開発・推進と人材育成

新たな産業・ビジネスモデルの創造を支援するため、北九州市と協力して新規展示会（6次産業分野・デジタルものづくり関連など）の開発を行う。またモノづくりの先端分野における様々なテーマのフェアインフェアやセミナーなどを行う。

その他、新規展示会の営業や開催までの支援に協力いただくアドバイザーの導入や装飾入札制度の見直し・サイボウズアプリケーションの導入等で展示会担当者の負荷を減らすとともに、余裕部分で新規見本市開発資する人材育成を実施する。

■ 『地域ニーズを捉えた新規企画』の開催

→国の地方創生総合戦略や地震や水害等の復興支援事業など地域ニーズにあわせて各種事業に絡めて実施する。また、新企画開催のために地域のステークホルダーを交え、「ロボット」「I o T」「観光」「6次産業」「少子高齢化」等の新テーマの事業展開を模索する。

■ 装飾プロポーザル制度の導入と業務効率化アプリケーションの導入の検討

→業務効率向上のため、装飾・電気工事を一体化した年間プロポーザル制度を導入、また、業務効率化にむけたアプリケーションの活用を検討する。

■ 事業アドバイザー制度の導入や社内勉強会等の実施

→各事業の時宜に応じたテーマや先端技術に詳しい大学の研究者や業界に精通し、バイヤー集客のための人脈を保有しているコンサルタント等を各事業のアドバイザーに選任し、必要な時に招へいすることで、必要な知見をアドバイスしていただく制度を導入する。

また、専門家・コンサルタントを招いて、事業部内でワークショップ型の勉強会を開催する。その他、昨今、展示会の単独開催が難しくなる中で、東京の主催者や事業部門を保有する展示場等と意見交換をすすめ、新たな事業開発や自主事業の開発について意見交換をすすめ、将来的な会議の場づくりを検討する。

(3) にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催。また、ミクニワールドスタジアム北九州と連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

会議・大会等

(1) グローバルMICE都市としての国際会議誘致の強化

ICCAへの加入により、北九州開催に適した会議の情報収集が可能となり、的を絞った営業活動を行うことで国際会議誘致を強化する。また、「北九州市グローバルMICE推進協議会」を設立したことにより地元ステークホルダーとの連携促進体制を強化し、海外見本市・商談会への参加や、英語版ホームページ等海外向けPRツールの充実を図る。さらに、国際会議誘致や情報ネットワークの拡大のため、海外で開催されているMICE見本市・商談会に参加し、直接国際会議主催者やインセンティブ・ツアー取扱旅行代理店との商談を行っていく。

(2) 誘致マーケティングについての取り組み

4大学（九州工業大学、九州歯科大学、北九州市立大学、産業医科大学）、北九州市、北九州商工会議所との連携協定を活用した誘致活動を行うほか、JNTOからの情報収集、IMEへの参加を行うなどでマーケティング活動に取り組む。

(3) 誘致セールスについての取り組み

国際ネットワークのさらなる構築、首都圏への積極的な営業、西日本総合展示場・北九州国際会議場の効率的な利用の促進、主催事業にマッチした誘致営業、MICE開催助成金を活用した営業、インセンティブツアーやスポーツ関係の誘致等に取り組む。

(4) 開催支援への取り組み

会議支援制度の拡充、新たなユニークベニユーの開発、産業観光などのエクスカージョンの活用等を行い、北九州市のPRを図る。

また、増加する国際会議に対応するため他ボランティア団体との連携、コンベンションボランティア制度などきめ細かな誘致支援活動を行う。

貸館利用者の誘致・営業強化

(1) リピーターの定着化及び復活

当協会の展示場施設の収益の安定を図るために、重要なリピーターの施設利用の定着化や復活開催を推進させる。また、特にリピーター率が高い「自動車ディーラー」や「家電メーカー」、「ハウスメーカー」等に対し引き続き営業フォローに努める。

(2) 新規利用者の開拓

新たな利用形態を開拓するため、地元の経済波及効果を高め、施設の知名度の向上につながるコンサートやゲーム大会のほか、試験日程が安定している資格検定試験や入学試験などを中心に営業活動を展開する。

(3) 「にぎわいイベント」への取り組み

これまで、閑散期（夏季及び冬季）における利用者増・収入増を目的に、親子を対象としたにぎわいイベントなどの企画・開催に積極的に取り組んできたが、平成30年度からは、新たにゴールデンウィーク（5月初旬）の開催にも取り組む。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

協会ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、JR小倉駅のマルチビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などによる広報活動を実施する。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口のにぎわいづくりと魅力アップに貢献していくため、あるあるCityなどと連携したイベントの開催の検討、小倉駅新幹線口地区振興連絡会の活動に積極的に取り組む。

また、名古屋産業振興公社が管理運営する施設との相互利用割引制度をベースに、各々が実施する主催展示会の協力事業を模索するなど広域ネットワークの構築による施設利用の促進と主催展示会の拡充を図る。

管理・運営

(1) サービスの向上

利用者アンケートや利用実態等を参考に貸出備品等の充実を図る。展示場に関しては、増加傾向にある各種の試験会場として利用の多い長机のリニューアルや、照明器具のLED化の導入を検討する等、利用拡大に向け顧客ニーズに合った施設を目指す。

また、料金の算定事例や平均的な利用パッケージメニューなどのホームページへの掲載や、

ホームページ上で会場使用料の概算金額をシミュレーションできる仕組みづくりを検討する。申込み手続きに関しては、ホームページを活用することで、利用者、施設管理者双方の手続き業務の効率化、書面においても簡素化を図ること等を引き続き検討する。

さらに、ミクニワールドスタジアム北九州との連携を図る上で、当施設でできるハード・ソフト面でのサービスメニュー等、来場者への満足度向上に繋がるような利用方法を検討する。

(2) 職員の資質・能力の向上

多様化するニーズに適応できる人材育成促進のため、企画力やコミュニケーション能力を高めるための研修等を積極的に導入する。引き続き個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守等も意識しながら、職員資質、能力開発を図ることにより、全般的なサービスの質の向上を目指す。

(3) 施設・設備の改修等

展示場・会議場を、いつも安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

(4) 展示場本館の対応等

築40年を経過し、経年劣化による設備等の改修に注意し、効率的、効果的な修繕計画を検討する。また、耐震改修工事については、定期利用者等との今後の利用日程の調整を慎重に行いながら工期の設定に向けた準備を進める。

観光客の誘致及び滞在化促進

(1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業

北九州空港への直行便が就航したことにより、北九州市への観光客が増加している東アジア（韓国、台湾）を中心とした旅行社へのセールスを強化するとともに、クルーズ船を利用した外国人観光客の誘致にも取り組み、北九州市及び観光関連企業と連携して受け入れ体制の強化にも取り組む。

また、国内向けの観光キャンペーンを実施し、北九州市への誘客や滞在化促進を図る。

その他、各都市で開催される祭り・イベント等への出展やPR活動を行い、北九州市での祭り・イベントへの参加を促すことで、都市間交流による観光客誘致に繋げていく。

(2) 修学旅行誘致事業

北九州市及び民間事業者で修学旅行誘致ワーキンググループを組織し、修学旅行の行程等の実施状況等の調査や旅行社教育旅行担当者へのセールスを実施する。また、修学旅行の受け入れ体制を充実させるため修学旅行ガイドの養成や新たな修学旅行受け入れのメニュー作りなどを行い、教育関係者を招いたFAMツアーなども企画していく。

(3) 助成事業

北九州市観光振興プラン等に掲げる、観光客数の目標数値〔平成31年 2,460万人（うちインバウンド40万人）〕を見据えて、国内向け旅行商品企画に対する助成や、海外旅行商品企画に対する助成を行い、国内外旅行者の誘客を促進する。また、北九州市を代表する伝統的な祭事に対し補助を行い、集客力のある祭事の継続による観光客の誘致を図る。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

北九州市の観光情報やイベント、コンベンション情報を掲載した機関誌「北九州観光だより」の発行や、北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北九州」の運営、観光カレンダーや観光絵葉書等の観光関連書籍の発行を行う。また、ホームページやFacebookなどのアクセス解析・分析を行うなど観光客誘致のシステムづくりに向けた調査を行い、観光客のニーズに合った観光素材のPR活動を強化していく。

観光に関する人材の育成及び啓発

外国人観光客の増加に対応し、受け入れ体制の充実を図るため、観光業務従事者を対象におもてなし意識の向上や語学等のコミュニケーション能力のスキルアップを目的としたセミナーを実施するなど、観光マインド育成事業を行う。また、観光ボランティア制度の運営や北九州観光市民大学を開講し、観光マインドの醸成を推進する。その他、観光振興及び観光意識の高揚を図るため、観光事業やMICE事業の発展に著しい功績があると認められる個人又は団体を表彰する。

特産品の紹介・宣伝

特産品紹介パンフレットを作成し、市内各所で設置・配布を行う他、北九州市の特産品をホームページで紹介するとともに、「北九州観光市場」「楽天市場」などの通販サイトで購入できるシステムを管理運営し、販売促進に努める。「北九州観光市場 ふるさと寄付金返礼品」については、行政等と協議を図りながら、北九州市の独自性の強い商品及び特産品を推薦することで、北九州市が委託した業者と協力して物産振興に寄与していく。また、市内外で開催されるイベントや観光物産展のほか、MICE事業との連携を図り小倉駅新幹線口で開催される会議、大会、展示会等の会場で臨時売店を出店し、北九州市の特産品やお土産を販売していく。

観光に関する施設の管理・運営

公益目的事業では、北九州市、JR九州、西鉄バス北九州、北九州エアターミナルと当協会が組織した「北九州市観光案内所運営協議会」を中心に、官民一体となって観光案内所のサービス強化を図る。

また、新たな観光施設の管理・運営について検討する。

収益事業では、門司港レトロ地区で運営する売店「北九州おみやげ館」において、新商品や話題の商品等を考慮した品ぞろえを行い、売上の増加を目指すほか、門司港レトロ駐車場及び周辺施設の安定的な事業運営に努める。

また、JR小倉駅3階のJAM広場及びJAMビジョンについては、JAM広場の管理運営方法を平成30年度から一部変更し、にぎわいの創出につながるイベントの実施や、新たな顧客開拓につながる営業活動を行うことで収益増を目指す。

V 平成 30 年度予算

1 収支予算書(総括表)

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日 (単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	5,269,000	1,664,000	4,305,000	0	11,238,000
展示場設備受贈益	25,001,000	7,895,000	0	0	32,896,000
特定資産運用益	4,548,000	109,000	0	0	4,657,000
受取会費	11,806,000	0	0	0	11,806,000
事業収益	330,113,000	501,822,000	0	0	831,935,000
受取補助金等	357,460,000	0	528,000	0	357,988,000
受取負担金	36,220,000	41,940,000	0	0	78,160,000
協賛金	800,000	0	0	0	800,000
雑収益	8,194,000	6,078,000	0	0	14,272,000
経常収益計	779,411,000	559,508,000	4,833,000	0	1,343,752,000
(2) 経常費用					
事業費	864,917,000	405,860,000	0	0	1,270,777,000
管理費	0	0	17,863,000	0	17,863,000
経常費用計	864,917,000	405,860,000	17,863,000	0	1,288,640,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 85,506,000	153,648,000	▲13,030,000	0	55,112,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 85,506,000	153,648,000	▲13,030,000	0	55,112,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外費用増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	73,971,463	▲ 79,676,537	5,705,074	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	30,000,000	0	0	30,000,000
当期一般正味財産増減額	▲ 11,534,537	43,971,463	▲ 7,324,926	0	25,112,000
一般正味財産期首残高	1,955,282,874	318,376,297	▲21,715,254	0	2,251,943,917
一般正味財産期末残高	1,943,748,337	362,347,760	▲29,040,180	0	2,277,055,917
II 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	4,385,008	0	4,385,008
一般正味財産への振替額	25,001,000	7,895,000	4,305,000	0	37,201,000
当期指定正味財産増減額	▲ 25,001,000	▲ 7,895,000	80,008	0	▲ 32,815,992
指定正味財産期首残高	266,908,359	84,285,485	761,021,258	0	1,112,215,102
指定正味財産調整額	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	241,907,359	76,390,485	761,101,266	0	1,079,399,110
III 正味財産期末残高	2,185,655,696	438,738,245	732,061,086	0	3,356,455,027

VI 役員名簿

平成30年7月1日現在

役職名	氏名	備考
理事長	利島康司	北九州商工会議所 会頭
専務理事	柏木康彦	(公財)北九州観光コンベンション協会
理事	加茂野秀一	北九州市産業経済局長
〃	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
〃	安部高子	北九州商工会議所女性会 副会長
〃	廣瀬香	(一社)九州経済連合会 農林水産部長
〃	井上暢忠	(一財)九州産業技術センター 専務理事
〃	熊野一雄	小倉社交事業組合 組合長
〃	関宣昭	NPO法人里山を考える会 代表
〃	南浦忠義	(株)リーガロイヤルホテル小倉 総支配人
監事	石井佳子	北九州市会計室長
〃	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事